

題字は 県漁連三浦会長

12月号
No. 111

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
神戸市兵庫区新在家町 2部 155
三浦 清太郎 3308
TEL 676666

発行人
委員 会
三浦 清太郎
編集 長
三浦 清太郎
発行日
毎月 30日
一部10月
昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

第10回 兵庫県漁協婦人部大会



第10回兵庫県漁協婦人部大会

**全員決意を新たに、確固たる信念をもって
明るく住みよい豊かな漁村づくりへ**

十一月十九日、午前十時
三十分より水産会館にて第
十回兵庫県漁協婦人部大会
が、兵庫県漁協婦人部連
合会的主催により開催され
た。

県下全域の津々浦々から
各漁協婦人部より参加し
た熱情あふれるばかりの部
員二百有余名が一堂に集し
て、県並びに関係機関代表
者等多数の来賓を迎えて盛
大に挙行された。

大会の開会に当り、主催
者として畑中県漁連連会長
の挨拶があり、大会宣言に
引続き、昭和四十年年度全国
優良漁協婦人部の全漁連全
長表彰（津居山港、神戸市
西部両漁協婦人部）伝達式
のあと、来賓祝辞として

- 農林部長より
- 一、心身ともに強くたくましく漁村の子供を育てあげる
- 二、漁村の生活改善と、漁業所得の向上を図り、若い人が漁村に暮らしやすい環境を造り上げること
- 三、現下の漁業問題について、特に内海関係については稚魚をとらないことに協力すること、水質汚濁対策についての当局の構想、但馬関係については、日韓漁業問題を将来明るい方向に導いて行くための自覚操業等について
- 県漁連会長より
- 当面漁業の問題点である漁業災害補償法について
- 一、漁災法と漁業との関係
- 二、漁災法はどのように実現されたか
- 三、漁災法は出来たがその法の運営団体である共済組合の現状はどうか、今どんな役割をしているか
- 四、漁災法の将来性とその他について

信濃連会長より

「永年にわたる信濃連への漁協婦人部の協力に対する謝意と経済界、金融界のむづかしい現状、並びに婦人部の今後の充実活躍に對する要望」等につ

●大会宣言●

近年、我が国産業界はめざましい発展を遂げ、昨年より解放登落体制に入り、先進国として世界の仲間入りをしたわけで、漁村においても漁業災害補償法の確立、沿岸漁業構造改善事業の実施等、豊かな住みよい漁村づくりの諸施策が講ぜられ、沿岸漁民の工夫努力で漁村近代化による漁業生活の向上に明るい希望がもたれるに至りました。

しかしながら自然現象に支配される沿岸漁業は依然として低生産の域をさまよって他産業との所得格差は縮まらず、若年就業は断絶の一途を辿り、労働力の不足に悩み、加えて水質汚濁問題、水産物輸送問題、流通問題等、私達が親組合に協力して是に解決しなければならぬ幾多の困難な問題がよそわって居ることを痛感いたします。

本日にここに、第十回兵庫県漁協婦人部大会の開会に当り、漁協婦人部が一堂に集し、現下の情勢をみつめ、私達に課せられた使命の数々を再認識するとともに、私達部員は決意を新たに、確固たる信念をもって、一層固く結び合い、「明るく、住みよい、豊かな漁村づくり」に邁進することを固く誓います。

昭和四十年十一月十九日
兵庫県漁協婦人部大会

大会決議

- 私達は、過去十数年の歩んで来た私達の漁協婦人部活動を反省し、更に進んで明るく豊かな漁村建設のため、本日ここに次の事項を決議することを決議します。
- 一、現在の社会情勢を充分みつも、漁村近代化の諸施策活用と相まって豊かな漁村づくりに寄与します。
 - 二、私達は一層固く結び合
 - 三、私達は教育を高め、社会性を身につけるとともに、子弟の教育には充分意を用い、漁業の明日の明るい手の育成に努めます。
 - 四、家計簿の記帳を部員各自が実行し、生活の計画化、合理化につとめ、貯蓄の増強に一層の努力を払います。

農林中央金庫の「住宅等生活改善資金」融資制度についてお知らせ

今般農林中央金庫では、漁業者の皆さんの生産資金のみでなく、住宅の新築や敷地購入、台所改善等の生活面資金についても下記の通り、漁業協同組合を通じて融資取扱いはじめました。

なお借入申込必要書類等詳しくは、県信用漁連または農林中央金庫神戸事務所までお問合せ下さい。

記

1. 取扱範囲
 - (1) 漁協組合員の住宅新築、取得、増改築、敷地の購入。
 - (2) 船主が行なう船員アパート、従業員住宅。
 - (3) 住宅金融公庫等の協同融資。
 - (4) その他生活改善資金。
2. 貸付限度および融資率
 - (1) 1人当り借付限度は原則として2,000千円。
 - (2) 融資率は原則として対象事業費の8割まで。
3. 貸付利率

漁協に対して年8.3%。
4. 返済期間

据置期間は竣工後6ヵ月以内、償還期間は15年以内。
5. 担保

担保物件は、原則として融資対象建物および敷地。
6. 保証人

組合長および組合常勤役員。
(転貸借証書には、保証人2名以上)

(農林中央金庫神戸事務所)

特別決議

私達は構造改善事業中、経営近代化対策等、昭和四十一年度が最後の昭和四十一年度が、全事業計画について、完全交付付を特に要請いたします。

アカガサレ病対策について

この病気が、藻類類の一つである、シロムシ菌の寄生によって起るものですが、この菌が水中で赤サビ色に繁殖することから、アカガサレ病と名づけられたものです。

この赤サビ色になった部分、一〇〇〜四〇〇倍の顕微鏡で調べると、ノリ細胞の低水温で繁殖しているのを見ることが出来ます。

この菌は、水温が二十〜二十五度で、養分が豊富な場合に、三時間以上の乾燥に弱いという性質があり、干渉時間を十分とすれば、抑制効果が期待出来ます。

以上五つの漁協婦人部であり、その発表内容については、紙面の都合により次号より掲載の予定です。

今年のイワシ漁況 (第七報)

(1) 海況の推移

今年は一月中旬以降降
 磨灘、大阪湾の水温は急速
 に低下して例年水温より一
 ・五〜二・〇度C低値となり
 ・それが八月上旬までつづ
 づいた。特に春季の水温上
 昇のおくれが目立ち、四月
 六月の低水温は表層魚の来
 遊を時期的に一月近くお
 くらせ、量的にも少なくし
 た。

また、例年みられる春季
 のプランクトンの発生増進
 を抑制した。二月から七
 月にわたる低水温は、冬季
 偏西風の連吹、四〜五月に
 南寄りの風がほとんど吹か
 なったために、上下水塊
 の混合が充分でなかったこ
 と、さらに例年より長い梅
 雨のため日照量不足気味
 であったことなどによって

(2) カタクチ魚群の出現状況

カタクチイワシが多獲さ
 れた昭和三十三年前後の大
 漁、播磨灘では漁獲量の
 中八十〜九十%が当り魚の
 小中形で占められていた
 が、昭和三十五年ごろから
 大羽の割合が高まり、今年
 は漁獲量のおよ
 七〇%以上が大羽
 によって占められ
 たものと推定され

る。今年はその前
 述のように冷春現象の
 ため、外海からの
 親魚の来遊がよく
 れ、産卵量も過去
 十二年の内の最
 低であったこと、
 外海春季発生群
 (シラス、カエリと
 して)の来遊が短
 期間に終漁し量的
 にも少なかったこ
 とが、夏から秋の
 最も大きな不漁の
 因とみられる。た

(3) イワシ漁況と関連する他の漁況

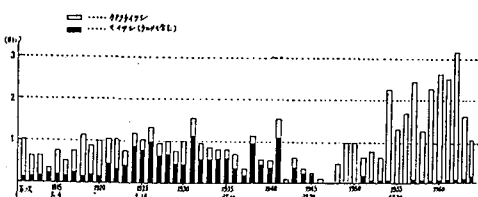
一 五月中旬から六月上旬
 にかけて、大阪湾にサンマ
 (体長二五〜三十センチ)が
 沿岸近くまで北上した。こ
 れは春期太平洋上群であ
 るが、当時から発達した熊
 野灘冷水塊の影響が大きか
 ったものと考えられる。
 二 六月中旬からマサ
 パ(体長二二〜三十センチ)が
 紀伊水道から大津に入り、
 東部で、その先端は播磨灘北
 部に達した。八月には南
 部に片寄ったが、播磨灘部
 には好漁をつづけた。これら
 マサパの出現は昭和三十八
 年以來連続しているが、今
 年は中サバが多かったのが
 目立ち今後も当分同様に
 出現するものと思われる。

三 終戦直後の混乱に人心は動
 搖し、社会不安は最も最悪
 の世となった。いかに漁
 業の安定に資する保険事業
 の魅力も感じられなかつた
 のであろう。従って一人の
 職員もおらず名目の組合
 が偶々第二次大戦後遠く
 野灘冷水塊の影響が大きか
 ったものと考えられる。
 二 六月中旬からマサ
 パ(体長二二〜三十センチ)が
 紀伊水道から大津に入り、
 東部で、その先端は播磨灘北
 部に達した。八月には南
 部に片寄ったが、播磨灘部
 には好漁をつづけた。これら
 マサパの出現は昭和三十八
 年以來連続しているが、今
 年は中サバが多かったのが
 目立ち今後も当分同様に
 出現するものと思われる。

漁船保険のあゆみ

昭和二十三年以降年別加入並びに保険金支払状況表
 表1

年度別	加入数			事故処理件数			支払保険金 千円
	N	S	L	全損	分損	計	
23	24	42	56	2	3	5	141,915.32
24	25	383	514	2	46	48	783,136.36
25	26	680	642	2	191	214	1,777,404.78
26	27	792	1,456	6	705	730	6,004,158.18
27	28	529	2,249	133	1,133	1,139	7,754,702.99
28	29	424	2,213	173	1,365	1,398	11,856,094
29	30	365	1,774	181	730	748	7,102,647
30	31	325	2,610	174	679	678	5,098,648
31	32	347	2,743	136	965	676	5,926,631
32	33	325	2,741	88	1,118	1,139	6,482,173
33	34	311	2,768	86	1,319	1,338	7,452,774
34	35	262	2,790	82	1,488	1,497	9,516,306
35	36	182	3,014	81	1,294	1,311	10,111,079
36	37	207	3,044	86	1,285	1,347	13,299,324
37	38	169	3,485	123	1,282	1,293	11,795,346
38	39	132	3,368	123	1,229	1,231	10,099,529
			3,652	117	1,231	1,271	15,209,118
計	5,330	39,119	1,761	46,210	305	16,060	130,320,913.63



「船の屯数について」
 船の大きさあらわす屯数にはいろいろ種類がある。よく使われるのは総屯数と重量屯数並びに、排水屯数である。
 総屯数というのは船舶の内部の総容積(但し操舵室などの部分は含めない)を100立方フィート(約2.83立方メートル)で割った数であらわす。即ち総屯数の場合の屯というのは重さでなく体積をあらわしている。
 重量屯数とはある船に実際に乗せることができる荷物の重さをいいたものが重量屯数で、例えば1,000重量屯の船といえ、その船には1,000トンの重さの荷物を積んで航海できる船である。総屯数と重量屯数の関係は5と8位の割合になる。例えば総屯数1,000屯の船を重量屯数であらわすと約1,600ないし1,700屯位になる。
 排水屯数とは軍艦とか潜水艦のように荷物を積まない船の大きさあらわすのに用いられるもので、船体の重さによって排出される水の重さ(1立方メートルが1トン)であらわす。即ちその船の目方を示している。
 以上の他に純屯数といわれるものがあるがこれは総トン数から船員室、機関室、船員庫等の容積を差引いたもので、貨物や旅客の運送に用いる場所の容積を示したものである。

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

今年、例年みられる春季のプランクトンの発生増進を抑制した。二月から七月にわたる低水温は、冬季偏西風の連吹、四〜五月に南寄りの風がほとんど吹かなかったために、上下水塊の混合が充分でなかったこと、さらに例年より長い梅雨のため日照量不足気味であったことなどによって

表2

種別	金額
総額	23,449,895円
料助補助費	8,007,998
保庫補助費	966,000
町船補助費	2,959,913
市船補助費	3,231,657
県船補助費	8,284,337

早く漁場へ、早く市場へ

ヤンマーディーゼル

● 船舶主機用 / 3~800馬力

● E形 (8馬力) ● E〇形 (10馬力) ● 2ST形 12馬力 ● NTS70形 3馬力

ヤンマーディーゼル株式会社

大阪市北区茶屋町6-2
 本店 大阪・東京・福岡・札幌・高松・広島・金沢
 支店 岡山・旭川・大分
 出張所

